

研修報告書

焼津市議会議長 様

議員氏名 石原孝之

令和 5 年 10 月 31 日の下記のことについて、研修に参加したため、概要について報告いたします。

研修名	第 17 回地域医療政策セミナー
研修の目的	地域包括ケアシステムを支える ICT の仕組みや食支援の京のまちづくりから地域医療の理解を深める。
所 感	<p>第一講演では、北海道名寄市の医療介護連携の ICT の取組を学びました。昨今、地域包括ケアシステムが求められている中で ICT の力とコミュニケーションの両輪で行政サービスのオンライン化や市立病院を中心に地域資源につなげることで、市民にも広く知ってもらうように共有の場を設けることで一つずつ問題を解決するところが印象的でした。ICT 化することでサイバー攻撃にも対応するためオフラインバックアップ装置の導入の経緯などの説明がありました。</p> <p>第二講演では、食支援の京のまちづくりテーマに、京滋 摂食・嚥下を考える会が中心になって行っているいつまでも食を楽しめるように嚥下食プロジェクト京の和菓子、介護食器プロジェクト、新ブランドの京介食の取組が高齢者にとって食を最期まで楽しめる工夫などとても勉強になりました。アツい想いと熱量で様々な機関を巻き込んでいくことが、とても印象的でした。</p>
今後の参考となる事項	<p>2024 年医療、介護、障がいの同時報酬改定</p> <p>地域包括ケアシステムの更なる推進のための医療、介護、障がい者支援サービスの連携</p> <p>医療DX 北海道名寄市の医療介護連携 ICT を構築</p> <ol style="list-style-type: none">1, 名寄市立総合病院と地域の連携効率化、2, ケアマネジャーの業務負荷の軽減3, 市が中心になって地域でひとつのネットワーク(地域完結型)を構築 <p>行政手続きのオンライン化、ペーパーレスの取組</p> <p>京介食推進協議会を立ち上げ、京介食ブランドを立ち上げ</p> <p>京料理の嚥下食プロジェクト、介護食器プロジェクト、豆腐プロジェクト、日本酒プロジェクト</p> <p>食に関していつまでも本人に楽しんでもらえるように寄り添う姿勢</p>

* 上記に書ききれない場合は、適宜別紙を添付してください。

* 参考資料等がある場合は、添付してください。

全国自治体病院経営都市議会協議会 主催

第17回地域医療政策セミナー

プログラム

令和5年10月31日（火）午後1時

於：都市センターホテル3階「コスモスホール」

1 開 会 （午後1時）

2 主催者挨拶 全国自治体病院経営都市議会協議会
会長 山田典幸
（名寄市議会議長）

3 講 演 （午後1時10分～4時30分）

「地域包括ケアシステムを支える ICT の仕組みづくり」
名寄市立総合病院情報管理センター長
守屋 潔 氏

<休 憩>

「食支援の京のまちづくり ～新たな医療産業連携の試み～」
愛生会山科病院 消化器外科部長
荒金英樹氏

4 閉 会 （午後4時40分）

守屋 潔（もりや きよし）

名寄市立総合病院情報管理センター長
兼名寄市健康福祉部参与



プロフィール

- 1985年（S60） 東北大学工学部通信工学科 卒業
民間企業に22年勤務
- 2008年（H20） 旭川医科大学医工連携総研講座特任教授
- 2020年（R2） 名寄市健康福祉部参与（地域包括ケアICTシステム担当）
- 2022年（R4） 名寄市立総合病院情報管理センター長

IT系企業出身で旭川医科大学時代は「医療 x ICT」の研究と北海道内の遠隔医療ネットワーク構築に携わる。現在は名寄市を中心として地域包括ケアシステム（医療介護連携）、広域医療連携を支えるICTネットワークの構築と運用管理の責任を担っている。

荒金 英樹（あらがね ひでき）

愛生会山科病院 消化器外科部長
京介食推進協議会 会長



プロフィール

- 1992年3月（H4） 京都府立医科大学医学部卒業
- 1992年4月（H4） 京都府立医科大学 第一外科
- 1993年4月（H5） 済生会京都府病院 外科
- 1996年4月（H8） 京都府立医科大学 消化器外科
- 2000年4月（H12） 一般社団法人愛生会山科病院 外科医長
- 2004年4月（H16） 愛生会山科病院消化器外科部長
- 2010年1月（H22） 京滋摂食嚥下を考える会 代表世話人
- 2019年7月（R1） 京滋摂食嚥下を考える会 顧問
京介食推進協議会 会長

京都の市中一般病院で一般消化器外科に従事。人工栄養とがん患者の栄養管理を専門とし、病院内では多職種とともに栄養サポートチームを編成、疾患に応じた栄養支援をすることで治療の下支えを行っている。また、超高齢社会の招来による摂食嚥下障害、誤嚥性肺炎の増加に対して院内の体制を整備するとともに、地域での医療連携、異業種との交流を通じた「まちづくり」にも取り組んでいる。なかでも京都の伝統食産業の職人とともに介護食を地域の食文化にしようという活動は、地域の産業を巻き込む新たな地域包括ケア 京都モデルを目指している。